

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372801037		
法人名	社会福祉法人 嘉悠会		
事業所名	グループホーム康寿苑		
所在地	熊本県上益城郡嘉島町上六嘉2268		
自己評価作成日	平成26年1月14日	評価結果市町村受理日	平成26年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アクシス		
所在地	熊本県熊本市八幡9-6-51		
訪問調査日	平成26年2月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

場所は利用者の方にも馴染みの深い手足の守り神として知られる足手荒神の隣にあり、小学校や住宅地が並ぶ自然豊かで静かな大変恵まれた環境にあります。そのため日頃より取り組んでいる「散歩」もゆっくりと安全に行うことができ利用者にも喜んでいただいています。
 「小規模事業所かしまスマイル」との併設事業所、敷地内には「地域の縁がわどぎゃんね」もあり、利用者間の交流も行われます。近隣には協力病院と同法人の特養があり、医療面や緊急時の協力体制が整っており利用者、家族の安心に繋がっています。また、楽しみの一つである食事は、買物から調理まで利用者に手伝ってもらおう等参加をしてもらうことを心掛けています。また、農園もあり種まきから収穫作業まで楽しみながら一緒にしています。今後も利用者、家族、スタッフ、そして地域が一丸となり「利用者本位」の理念のもと感謝の気持ちを忘れず、共に支えあう関係作りに努めていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業者の隣には、手足の守り神である足手荒神があります。ここは緑に囲まれ、癒しの空間となっています。利用者にとっては昔も今も心の拠り所であり、また地域の方々との出会いの場、交流の窓口ともなっています。また事業所の敷地内にある地域の縁側“どぎゃんね”(集会場)では、職員が先生を務めるペーパークラフト教室が毎週開かれており、事業所の内容や取り組みを理解してもらい、良い機会にもなっています。そのほか 医療面や緊急時の協力体制が整っていること、農園を利用した支援に取り組んでいることなどが挙げられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝行う朝礼で必ず唱和をすることにより、サービスを行うに当たっての心構えと地域の一員であることを全員で確認し、気持ちを引き締めて業務にとりかかることができている。	理念は、地域の一員であること、サービス行うにあたっての心構えなどをもり込んでまとめられ、見やすい玄関ホールに掲示されています。また、共有と実践に向けた取り組みとしては、朝礼での唱和とミーティングでの振り返りを行っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事への参加を老人会等を通じ依頼し、もちつき会や敬老会には多数の地域住民のボランティアや参加が。また地域の縁側「どぎゃんね」も近隣のかたにも利用してもらいスタッフとの交流も行われている。	事業所は、地元自治会に入会しており、地域の一員として活動しています。また同じ敷地内には、地域の縁側“どぎゃんね”(集会場)があり、地域の方々から有効活用されています。ここでは、毎週1回、職員によるペーパークラフト教室も開かれています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向け毎月いろいろなテーマで教室を開催している。また、老人会へも定期的に参加し勉強会や体操等と一緒にやっている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回は必ず開催しており、入居者の状態や行事、利用状況等を報告している。また、避難訓練の実施状況も報告し課題等についても問題提起をしながら一緒に考えていただいている。	運営推進会議は、併設事業者と合同で、2ヶ月に1回行われています。外部からの出席者は、老人会長、民生委員、社会福祉協議会の職員、利用者の家族などです。会議では、利用者の状態や事業所の取り組みについて報告し、意見交換を行っています。また、社会福祉協議会の職員が元役場職員だったということもあり、町との連携作りにも役に立っているようです。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	退所や入居居があった場合は報告、相談をその都度行っている。運営推進会議の内容も資料を提出し報告をしている。また、リサイクルができそうな品物も提供していただく等協力を頂いている。	事業所は、よりよいケアプラン作成の為に町の保健師や担当者から、助言や指導を受けており、より良い関係を築いています。また運営推進会議のメンバーでもある社会福祉協議会とも、良好な関係を築いています。	

グループホーム康寿苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	まず、身体拘束がなんなのかをスタッフで考える。その中には言葉や薬等もふくまれることを十分に理解し、まずはスタッフでできるケアを考え取り組むようにしている。	年に1回は、法人主催の勉強会が行われており、身体拘束の具体例や弊害について学んでいます。下剤の過剰な投与や言葉使いも含まれることを理解をしています。特に言葉使いについては、新聞の記事を参考にし、日々勉強し、実践に取り組んでいます。また、玄関の施錠については、防犯上の観点から夜間のみとなっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新聞や県からの冊子を用いて、ミーティングで勉強会を開催している。スタッフ同士で観察しあう等防止の徹底に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や施設内研修において実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明を行っている。また、相手が話しやすいような環境作りも心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会にて意見交換やアンケートを活用して要望等を反映させている。	事業所では、敬老会に合わせて、家族会を行っています。そこでは、今後に生かすためにアンケート調査を実施しています。その場で回答される家族もあれば、持ち帰って後日提出される家族もあるようです。内容としては、良い点や改善して欲しい点など、具体的に記入してもらうやり方です。また第三者苦情処理機関のポスターも玄関正面に掲示しています。	これからも満足することなく、意見や要望、また苦情等の出しやすい、環境づくりに取り組んで欲しいと思います。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者とスタッフの距離感を大事にして常に話しやすい雰囲気を中心掛けている。スタッフの性格面も考慮しながらコミュニケーションを図り、スタッフの気持ち等もくみ取り反映できるよう努力している。	管理者は、職員が思ったことを発言できるよう、日頃からコミュニケーションを取り、活用しやすい雰囲気づくりに力を入れています。また職員からの聞き取りでも、意見の言いやすい環境であることが伺えました。これまで職員の発案で、スロープを取り付けたり、リハビリ用具を作成したりしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回個別にて面談を行い、向上心を持って働けるよう目標の設定を行い、達成の状況に応じ賞与等に反映させている。		

グループホーム康寿苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ自らテーマを決め勉強会を開催しており、そのことが能力や知識の向上に繋がっている。また、定期的な法人内研修の開催や外部研修等を通じレベルの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	郡内の研修会に定期的に参加しており、その場において相談や情報交換ができています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族の情報からニーズを探り、できるだけ希望に添えるよう心掛けたケアを意識している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の面談時においてニーズ・要望を引き出すように心掛けている。また、話しやすい環境作りということも意識している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた場合、当事業所だけではなく、法人全体のサービスやその他の介護サービスも視野に入れ、本人と家族にとって一番良いと思われるサービス内容の説目に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中にも、プロとしての意識をもち臨機応変に対応している。できることを引き出し日常の中に取り入れるように努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には日ごろの状態等の報告をしあい、情報の交換に心掛けている。家族にも体調の変化等を意識してもらうことにより、早期の対応に努めている。		

グループホーム康寿苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	小学校や住宅地の中にあるという環境を活かし散歩支援を積極的に行うことにより顔馴染みの方との交流の場が持たれている。また家族や親戚にも行事に参加してもらい一緒に過ごしてもらっている。	事業所が住宅地の中に位置していることや、隣に足手荒神があり、大祭なども行われることで、顔なじみの方との交流も続いているようです。また事業所で行う餅つき大会や敬老会には、家族や親戚、近隣の方々にも多数参加してもらっているようです。	
21		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの座席や休憩時の過ごし方に配慮しながら利用者同士の関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	小規模利用からグループホームへの異動もあり顔馴染みの関係や環境が継続できる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活歴を踏まえ、意向を尊重するというケアを大事にしている。その中で一人ひとりの想いをくみ取れるよう「寄り添い・傾聴」を心掛けている。	利用者の生活歴を踏まえた上で、寄り添い、傾聴することで、思いや意向の把握につながっているようです。例えば、お店を切り盛りしておられた利用者からは、“お茶を飲んでいけますか”など、当時の接待の様子を伺ったり、農家でお米を栽培しておられた利用者とは、お米についての話しをするなど、利用者一人一人の歴史に思いを馳せた支援を行っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族との会議や会話の中から、情報の収集に努め、生活歴等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの性格や他者との関係を把握し、その人にあった過ごし方を提供できるよう努めている。		

グループホーム康寿苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状態や希望、家族の要望を計画に取り入れ日頃の生活に反映させるよう努めている。また、月に1回はモニタリングを実施し現在の状況等をスタッフが共有できるようにしている。	本人が、よりよく暮らすための介護計画は、本人の状態や希望を確認した上で、家族の意見も取り入れながら、管理者と主任が主体となって作成しています。必要な場合には、医師の指導や理学療法士等の意見も参考にするようにしています。また、月に1回は全利用者のモニタリングを実施しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録やモニタリング記録の確認、また朝礼時に行う申し送り、申し送りノートにて情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の本人や家族の状態、希望を考え法人内の事業所や他事業所と協力してサービス提供にあたっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事には多数の地域の方の参加があり、楽しく過ごすことができている。その中ででの触れ合いは利用者、スタッフにとっても貴重な時間である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望やこれまでの医師との関係を尊重した、医療支援を心掛けている。日頃の状態変化等を早期に把握し情報交換や情報提供することにより早期治療ができるよう支援をおこなっている。	基本的には、本人・家族が希望するかかりつけ医の受診を支援しています。今現在は、全利用者が近くの協力病院をかかりつけ医としています。緊急な場合や夜間の対応が可能ということで、家族の安心にもつながっているそうです。また認知症の専門医を受診している方が6名、訪問歯科を受診している方が1名おられます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回は協力病院の看護師の訪問があり、日頃の身体に関する相談やアドバイス等の関係は築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医や看護師と、本人や家族の希望等については常に情報交換をし安心して治療ができるよう取り組んでいる。		

グループホーム康寿苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は今後の支援方針等家族と協議し、できるかぎり要望に添えた支援ができるよう医療関係者やスタッフにて協議している。これまでの本人、家族と事業所との関係を大事にしながら支援が出来るよう心掛けている。	重度化した場合として、日常的に医療行為が必要になったり、経口摂取が難しくなったような場合には、家族と協議を行い、今後の支援方針を決めるそうです。また看取りについては、現在までのところ行っていないようですが、本人・家族との関係を重要視しており、今後は取り組む方向で、鋭意、準備中との事でした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会等において定期的に救急法やその他の対応方法についてはシュミレーション等と交換勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練には消防署、地域住民等も交え全スタッフが緊張感をもち参加できるよう取り組んでいる。運営推進会議や家族会等にて実施状況を報告し、相談やアドバイス、意見をいただいている。	訓練は、併設事業者と合同で行っており、訓練には夜勤職員も参加できるように夕方の時間帯で行っています。最近では、3～4名の近隣住民の参加も得て行われています。また備蓄については、法人で一括備蓄方式をとっているようです。	利用者が安全に避難するためには、近隣の協力と日頃の訓練が欠かせません。これからも、緊迫感を持った訓練を行って欲しいと思います。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者お一人おひとりのこれまでの人生の歩みや家族の想いを全スタッフが考えケアできるよう研修会等において管理者から話し、また日頃の対応等も管理者はじめ主任は観察するよう常に心掛けている。	接遇についての勉強会を行っています。管理者からは失礼のない言葉遣いや誠実な態度での対応、また名前の読み方などについて指導が行われています。職員からは、人生の先輩として、また“自分がされたら”ということもいつも考えて、失礼のないケアに取り組んでいるという話がありました。個人情報の取り扱いについては、家族とは契約時に確認書を、職員は入社時に誓約書を取り交わしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「利用者本位と自立支援」を意識し、お一人おひとりに合わせた日常生活が送れよう、ニーズや身体状況を把握し支援につなげている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で「役割り」を持つことを大事にし本人の状態に合わせた「お手伝い」を依頼する等し日々の生活の中にやりがいを持っていただくことを意識している。		

グループホーム康寿苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時に普段はあまり着ない服を選択する等おしゃれができる環境作りを意識している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事業所には畑があるが、そこに季節の食物を植え、自分達で収穫し食べる等「楽しみや、やりがい」を感じていただけるよう努めている。また、買物、食事作り後片付にも生活の一部として協力してもらい充実感が得られるよう心掛けている。	事業所には畑があり、季節折々の野菜を栽培しています。利用者の中には、植え付けから草取り、収穫まで参加される方も居られるようで、食事がとても楽しみなものになっているようです。また、他の利用者にも役割があるとの事で、台拭きや配膳・下膳等、体調に合わせて取り組んでもらっているそうです。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人おひとりの状態に合わせた食事量や形態の提供を心掛けている。また、食事、水分チェックも記録にて把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のケアを通し、清潔の保持や確認等できている。また必要に応じて協力歯科医院にも受診支援も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間や言動、行動等を注意深く観察し排泄パターンを把握することにより声かけ等による自立支援を促している。時間による定期的な誘導にならないよう注意している。	排泄が、自立している方が2名、その他の利用者は一人一人の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援しています。例えば、腰を浮かす・落ち着きがなくなる・食事が進まない・腹が痛い等の固有のサインを見落とさないよう、注意しているそうです。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や食物繊維等で予防している。また、医師にも相談し状態によっては内服薬を使用することもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回～3回にて対応している。時間や順番等も本人の希望や性格も考慮し対応している。また、自立支援にも意識をして取り組んでいる。楽しく、安心して過ごしていただけるよう心掛けている。	入浴の回数は、週に2回から3回を予定しています。必要な場合には、その都度対応しているそうです。入浴時間については、併設事業所との関係で、午前の場合も午後の場合もあるそうです。また、楽しく入浴できるように、しょうぶ湯やゆず湯等の季節を感じる支援も行っています。入浴剤の使用は行っていません。入浴拒否については、無理強いせず、時間を置いたり、場面を変える等の対応を行っています。	

グループホーム康寿苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度調整や照明にも本人の希望を聞く等して心地よい環境作りを心掛けている。また、不安感がある場合は寄り添うよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルにはそれぞれの処方せんを閉じており、いつでも確認できるようにしている。また誤薬もないよう数人で確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの経験を活かし掃除や買い物、畑の管理等それぞれの方が自分の役割りとして取り組むことができるよう意識をしている。また、作業中の声かけも意識をして行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃から散歩支援を行っており、気分転換と程良い疲れが夜間の良眠にも繋がっている。また、本人との話しの中で行きたい場所が確認できたら早めに行うことを心掛けている。	天候のいい春、秋を中心に外出支援計画を作成しています。利用者の体調を見ながら、週に1回は食料品等の買い出し、また2ヶ月に1回は日用品や衣料品等の買い出しに出かけるそうです。また、日常的な外出については、隣接に足手荒神があり、気分転換やストレス発散の為、積極的に支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	いつでも使用できる環境である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	夜間に家族のことが気になり電話を希望される方もいるが自由に使用でき安心、納得されている。手紙等場合によっては読む等の支援もしている。		

グループホーム康寿苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングからみえる南側には桜や梅の木があり季節を感じながらスタッフとともにゆっくりとした時間を過ごすことができる。また、同じ場所には畑もあり自由に行き来することができ、手入れをすることも楽しみになっている。	事業所は、南向きに大きく設計されており、利用者が集まれるホールは、とても日当たりがよく、大きな窓からは今を盛りと梅の花が満開でした。また、室内環境にも気を配っており、除菌噴霧器や空気清浄器が設置され、利用者の健康管理に注力していることがわかりました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人おひとりに自分の居場所があり、同じ環境で安心して過ごすことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や布団等を使用する意味を本人や家族にも理解、協力してもらうことにより、少しでも本人の寂しさや不安感を減らすことができるよう取り組んでいる。	基本的な設備は、ベッドと空調機です。寝具や収納家具については、持ち込みとなっています。事業所では、使い慣れた物や好みの物を持参し、居心地のよい部屋作りを勧めています。壁面を利用して、家族写真等が貼ってあったり、温かい感じが伝わってきました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にネームプレートを掲示することにより、分かりやすくし混乱がすくなるよう工夫をしている。室内はバリアフリーにより安全に自由に行動できるよう整備している。		